

生物多様性基礎調査結果 概要版

平成 27 年度夏季から平成 28 年度春季までに実施した、生物多様性基礎調査結果の概要は以下のとおりである。

調査地点ごとの確認種数

分類群	植物	鳥類	哺乳類	両生類	爬虫類	昆虫類	クモ類
①百草八幡神社の社叢林	73 科 165 種	10 科 12 種	2 科 2 種	0 種	0 種	105 科 214 種	12 科 20 種
②都立七生公園付近	84 科 216 種	14 科 20 種	0 種	0 種	1 科 1 種	117 科 269 種	12 科 29 種
③多摩川河川敷の樹林	58 科 140 種	28 科 41 種	1 科 1 種	1 科 1 種	1 科 1 種	123 科 312 種	12 科 28 種
④多摩平の森の団地植栽	75 科 212 種	12 科 14 種	0 種	0 種	1 科 1 種	80 科 188 種	5 科 5 種
⑤東光寺上地区の畑	37 科 114 種	15 科 16 種	1 科 1 種	0 種	0 種	102 科 219 種	3 科 3 種
⑥多摩川河川敷の高茎草地	58 科 201 種	29 科 48 種	3 科 3 種	0 種	0 種	114 科 289 種	4 科 6 種
⑦新井の田んぼ	42 科 117 種	11 科 12 種	1 科 1 種	1 科 1 種	0 種	85 科 163 種	4 科 6 種
⑧潤徳小学校ビオトープと向島親水路	78 科 232 種	19 科 23 種	3 科 3 種	1 科 1 種	0 種	102 科 233 種	5 科 8 種
⑨真堂が谷戸	83 科 268 種	12 科 16 種	4 科 4 種	1 科 1 種	0 種	118 科 267 種	8 科 19 種
⑩黒川清流公園	107 科 405 種	18 科 26 種	3 科 3 種	0 種	4 科 5 種	101 科 286 種	－

※黒川清流公園は東京都の調査結果を利用している

生息環境区分と調査地点の関連

生息環境区分	調査地点	備考
1:斜面・常緑樹林	①百草八幡神社の社叢林	
2:斜面・丘陵の落葉樹林	(斜面:⑩黒川清流公園) 丘陵:②都立七生公園付近	東京都が実施した東豊田緑地保全地域の調査結果を利用した
3:低水敷の落葉樹林	③多摩川河川敷の樹林	
4:果樹園・緑の多い住宅地	④多摩平の森の団地植栽	
5:緑の少ない住宅地	－	質的变化が少ないと考えられるため設定せず
6:畑・草地	⑤東光寺上地区の畑	
7:水田・低水敷草地	低水敷:⑥多摩川河川敷の高茎草地 水田:⑦新井の田んぼ	
8:開放水面	(多摩川の水面)	多摩川河川敷での調査と併せて実施
生息環境区分に 基つかない調査地点	⑧潤徳小学校ビオトープと向島親水路 ⑨真堂が谷戸	用水を活かした学校ビオトープとして、生息環境区分外から選定 市有地化を検討している谷戸環境として、生息環境区分外から選定

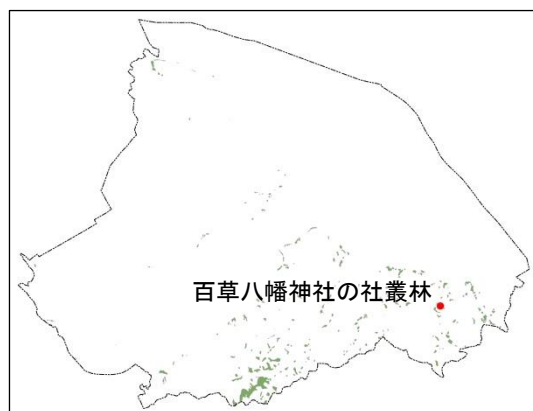
生息環境区分に基づく生きものの特徴

生息環境区分 1 斜面・常緑樹林

環境の特徴

丘陵地に位置するスダジイ、シラカシ、アラカシ等が生育する常緑広葉樹林（鎮守の森）






調査地点と生息環境区分の分布図



確認された動植物種

	百草八幡神社
植物	73 科 165 種
鳥類	10 科 12 種
哺乳類	2 科 2 種
両生類	0 種
爬虫類	0 種
昆虫類	105 科 214 種
クモ類	12 科 20 種

動植物の特徴

植物	スダジイの巨木群が特徴的に見られ、林内には、サネカズラ、ヒサカキ、アオキ、ヤブコウジといった耐陰性のある植物が生育していた。			
		スダジイ	サネカズラ	ヤブコウジ
鳥類	樹林地に生息する留鳥のシジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、ヒヨドリ、キジバト、アオゲラのほか、冬鳥のシロハラ、特定外来生物のガビチョウが確認された。			
		シロハラ	メジロ	ガビチョウ
哺乳類	様々な環境を利用するタヌキが確認されたほか、境内周辺の一部でモグラ塚が確認された。			
両生類 爬虫類	生息は確認されなかった。	アズマモグラ (モグラ塚)	タヌキ	
昆虫類 クモ類	朽木を利用する種、シイ・カン類を食べる種、林床の茂みに生息する種に加え、明るい草地に生息する種が確認された。			
		オオゴキブリ	クマスズムシ	オオイシアブ

課題

希少な樹林の保全

スダジイの巨木を中心とする発達した樹林環境は日野市内にごくわずかに残るのみで、周辺には住宅地がせまり、樹林環境が断片化・孤立化している。発達した樹林環境は日野市に残る貴重な環境であるため、適切に保全する必要がある。

民有緑地の積極的な活用

「百草のシイノキ群」など、自然に近いみどりを保全するためには、民有緑地の公有地化や管理協定、トラストの積極的な活用など行政と市民相互の連携・協力が求められる。

主な生息・生育確認種

生息環境区分	調査地点	主な生息・生育確認種				
		植物	鳥類	哺乳類	両生類・爬虫類	昆虫類・クモ類
1:斜面の常緑樹林	百草八幡神社の社叢林	ベニシダ マメヅタ スダジイ アラカシ シラカシ サネカズラ シロダモ タマノカンアオイ ヒサカキ イヌツゲ アオキ マンリョウ ヤブコウジ テイカカズラ ヤブラン ジャノヒゲ アズマネザサ シュンラン	キジバト ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ エナガ メジロ シロハラ カワラバト(ドバト) ガビチョウ	アズマモグラ タヌキ	—	カグヤヒメグモ ヨツデゴミグモ オオゴキブリ クマスズムシ クロツヤキノコゴミムシダマシ モンスズメバチ オオイシアブ コジャノメ

【凡例】

赤字：以下の基準に該当する種を重要種とし赤字で示した。

- ①「文化財保護法」(昭和 25 年 法律第 214 号)
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 法律第 75 号)
- ③「環境省レッドリスト 2015 の公表について」(環境省 平成 27 年)
- ④「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～(南多摩)(東京都 平成 25 年)に掲載されている種

青字：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成 16 年 法律第 78 号)に基づき特定外来生物及び未判定外来生物に指定されている種

生息環境区分に基づく生きものの特徴

生息環境区分 2 斜面・丘陵の落葉樹林

環境の特徴

丘陵地や崖線斜面に位置するクヌギ、コナラを中心とする落葉広葉樹（雑木林）

調査地点と生息環境区分の分布図



確認された動植物種

	都立七生公園付近	※黒川清流公園
植物	84 科 216 種	107 科 405 種
鳥類	14 科 20 種	18 科 26 種
哺乳類	0 種	3 科 3 種
両生類	0 種	0 種
爬虫類	1 科 1 種	4 科 5 種
昆虫類	117 科 269 種	101 科 286 種
クモ類	12 科 29 種	-

※黒川清流公園は東京都の調査結果を利用している

動植物の特徴

植物	アズマネザサが密生している箇所が見られたが、ベニシダ、クヌギ、シラカシ、コナラ、ヒサカキ、ガマズミといった丘陵地の樹林によくみられる植物が確認された。			
		コナラ等の雑木林	タマノカンアオイ	エビネ
鳥類	樹林地に生息する留鳥のシジュウカラ、コゲラ、イカルや夏鳥のカッコウ、冬鳥のアカハラ、ツグミ、笹藪を好むウグイス、特定外来生物のガビチョウが確認された。			
		カッコウ	イカル (確認環境)	ウグイス (確認環境)
哺乳類	黒川清流公園では、園路沿いでアズマモグラが確認された。七生公園では、今回調査した箇所の中で唯一、ノウサギの痕跡(糞)が確認された。			
		ノウサギ(糞)	ヒバカリ	アオダイショウ
両生類 爬虫類	湿った樹林や水辺を利用するヒバカリやアオダイショウが確認されている。斜面下部には湧水由来の水辺があるものの、両生類は確認されなかった。			
昆虫類 クモ類	雑木林のクヌギやコナラをはじめとした落葉広葉樹につく種、林床のササ類を食草とする種が確認された。			
		コクワガタ	トゲアリ	コチャバネセセリ

課題

<p>二次的自然環境の減少・劣化</p> <p>丘陵地の生きものの多様性を保つには、継続的に人の手を入れることで雑木林や草地など二次的な植生を維持することが必要である。</p>	<p>宅地化や相続によるみどりの減少</p> <p>丘陵や崖線の樹林は日野市に残された重要なみどりである。この環境を次世代に残すためには、宅地化や相続によるみどりの減少を防ぐ必要がある。</p>
---	--

主な生息・生育確認種

生息環境区分	調査地点	主な生息・生育確認種				
		植物	鳥類	哺乳類	両生類・爬虫類	昆虫類・クモ類
2:斜面・段丘の落葉樹林	※黒川清流公園	ベニシダ イヌシデ クヌギ シラカシ コナラ タマノカンアオイ ヒサカキ ヤマザクラ イヌツゲ アオキ ハナイカダ マンリョウ エゴノキ ムラサキシキブ アズマネザサ カタクリ エビネ ギンラン キンラン	カッコウ アオゲラ モズ ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス ツグミ カワラヒワ イカル ガビチョウ	アズマモグラ アブラコウモリ	アカミミガメ トカゲ カナヘビ ヒバカリ	オナガグモ ホシミドリヒメグモ カグヤヒメグモ ヨツデゴミグモ オオシロカネグモ キララシロカネグモ コガタコガネグモ キンヨウグモ クマズムシ コバネヒシバツタ ヤマトフキバツタ トビナナフシ コクワガタ トゲアリ ミカドガガンボ オオイシアブ オオチャバネセセリ クロヒカゲ ヒメヤママユ
	都立七生公園付近					

※黒川清流公園は東京都の調査結果を利用している。

【凡例】

赤字：以下の基準に該当する種を重要種とし赤字で示した。

- ①「文化財保護法」（昭和 25 年 法律第 214 号）
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 法律第 75 号）
- ③「環境省レッドリスト 2015 の公表について」（環境省 平成 27 年）
- ④「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～（南多摩）（東京都 平成 25 年）に掲載されている種

青字：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（平成 16 年 法律第 78 号）に基づき特定外来生物及び未判定外来生物に指定されている種

生息環境区分に基づく生きものの特徴

生息環境区分 3 低水敷の落葉樹林

環境の特徴

多摩川河川敷に成立したハリエンジュ、オニグルミ、ヤナギ類からなる落葉広葉樹林

調査地点と生息環境区分の分布図



確認された動植物種

	多摩川河川敷の樹林
植物	58 科 140 種
鳥類	28 科 41 種
哺乳類	1 科 1 種
両生類	1 科 1 種
爬虫類	1 科 1 種
昆虫類	123 科 312 種
クモ類	12 科 28 種

動植物の特徴

植物	外来種のハリエンジュやオニグルミ、ヤナギ類といった高木が樹林を形成していた。林内にはアケビ、アオツヅラフジ、ツルマメといったつる植物が多くみられた。川側の林縁部では外来種のシナダレスズメガヤの生育も見られた。			
鳥類	樹林地に生息する留鳥のアカゲラ、ヒヨドリ、エナガ、草地に生息する留鳥のモズ、ホオジロ、水辺に生息するアオサギ、カワウ、カワセミ、セキレイ類、特定外来生物のガビチョウが確認された。			
哺乳類	オニグルミの生える周辺においてアカネズミの利用が確認された。			
両生類 爬虫類	多摩川沿いにあるワンドにおいて、特定外来生物であるウシガエルが確認された。			
昆虫類 クモ類	羽化間もない時期に樹林で生活するトンボ類、マメ科やバラ科を食草とする種、明るく広い草地に生息する種が確認された。			

課題

<p>河川敷の樹林化</p> <p>河川敷に点在する樹木に外来種のハリエンジュがある。ハリエンジュは拡散することで、在来の植物に悪影響を及ぼす恐れがある。生態系を保全するためには防除を行う必要がある。</p>	<p>礫河原の劣化</p> <p>樹林や乾性草地の拡大によって、礫河原とそこに特徴的に生育・生息する生きものが減少していくおそれがある。特に、シナダレスズメガヤの生育量が増えると、冠水時に砂が堆積し、礫河原が砂の多い河原へ改変される可能性がある。</p>
---	--

主な生息・生育確認種

生息環境区分	調査地点	主な生息・生育確認種				
		植物	鳥類	哺乳類	両生類・爬虫類	昆虫類・クモ類
3:低水敷の落葉樹林	多摩川河川敷の樹林	オニグルミ コゴメヤナギ ムクノキ エノキ ヤマグワ アケビ アオツヅラフジ ヤブマメ ツルマメ クズ ハリエンジュ シンジュ アレチウリ イボタノキ	カワウ アオサギ カワセミ アカゲラ モズ シジュウカラ ヒヨドリ エナガ セグロセキレイ ベニマシコ ホオジロ ガビチョウ	-	-	アズマキシダグモ タカノハエトリ ヤハズハエトリ ハグロトンボ ナナフシモドキ クロケシツブチョッキリ ヒメケブカチョッキリ ヒレルクチブトゾウムシ ウラゴマダラシジミ

【凡例】

赤字：以下の基準に該当する種を重要種とし赤字で示した。

- ①「文化財保護法」（昭和 25 年 法律第 214 号）
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 法律第 75 号）
- ③「環境省レッドリスト 2015 の公表について」（環境省 平成 27 年）
- ④「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～（南多摩）（東京都 平成 25 年）に掲載されている種

青字：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（平成 16 年 法律第 78 号）に基づき特定外来生物及び未判定外来生物に指定されている種

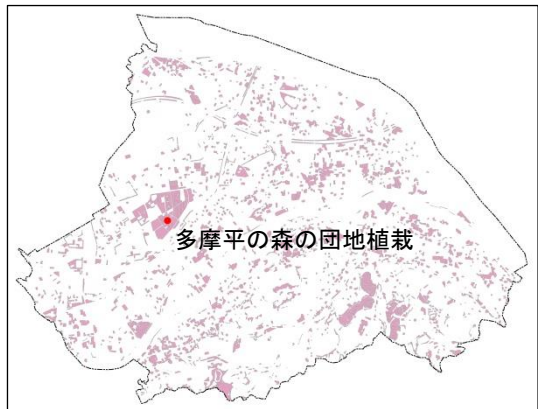
生息環境区分に基づく生きものの特徴

生息環境区分 4 果樹園・緑の多い住宅地

環境の特徴

台地上の住宅地周辺の植栽樹林群や芝生草地

調査地点と生息環境区分の分布図



確認された動植物種

	多摩平の森の団地植栽
植物	75 科 212 種
鳥類	12 科 14 種
哺乳類	0 種
両生類	0 種
爬虫類	1 科 1 種
昆虫類	80 科 188 種
クモ類	5 科 5 種

動植物の特徴

植物	団地外構には、下草が低く刈り込まれた植栽地や芝生草地が広がり、草丈の高い草本類は少ない一方、園芸植物や低茎の外来植物が多く生育していた。			
		ケヤキ	ウマノスズクサ	ムラサキツメクサ
鳥類	人家周辺に生息する留鳥のスズメ、ハクセキレイ、樹林地にも生息する留鳥のヒヨドリ、コゲラ、冬鳥のジョウビタキなどが確認された。			
		スズメ	ヒヨドリ	ジョウビタキ
哺乳類	生息は確認されなかった。			
両生類 爬虫類	低茎草地の環境においてカナヘビが確認された。局所的な草地がこれらの動物の廊下として利用されていた。一部刈り残す場所を設けるなど生息の場を増やす工夫が望まれる。			
		カナヘビ (確認環境)		
昆虫類 クモ類	人家周辺や明るい草地に生息する種や植栽樹木を利用する種が確認された。			
		ヒラタグモ	アオドウガネ	オオスカシバ

課題

<p>単調な緑地管理の改善</p> <p>芝生をはじめとする草地は一律に低く刈り取られることで、植栽環境が単純になっており、生育・生息する生きものが少ない。生きものへ配慮する観点からは、画一的な管理ではなく、そこに生息する生きものの生態に合わせた緑地管理が必要である。</p>	<p>民有地の緑の保全</p> <p>巨樹・巨木、屋敷林、櫨ぐね、社寺林等は民有地における歴史的価値のあるみどりであり、市民とともに保全や活用の方策について検討することが望まれる。</p>
---	---

主な生息・生育確認種

生息環境区分	調査地点	主な生息・生育確認種				
		植物	鳥類	哺乳類	両生類・爬虫類	昆虫類・クモ類
4: 果樹園・緑の多い住宅地	多摩平の森の団地植栽	イチョウ ヒマラヤスギ シラカシ エノキ ケヤキ ユリノキ クスノキ ヒイラギナンテン ウマノスズクサ ビヨウヤナギ アジサイ ソメイヨシノ ムラサキツメクサ フヨウ サルスベリ ドウダンツツジ ハナゾノツクバネウツギ オオアレチノギク ヒメムカシヨモギ セイタカアワダチソウ シバ シラン	キジバト コゲラ ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ カワラバト(ドバト)	-	カナヘビ	ヒラタグモ アオドウガネ サンゴジュハムシ オオスカシバ ホシホウジャク

【凡例】

赤字：以下の基準に該当する種を重要種とし赤字で示した。

- ①「文化財保護法」(昭和 25 年 法律第 214 号)
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 法律第 75 号)
- ③「環境省レッドリスト 2015 の公表について」(環境省 平成 27 年)
- ④「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～(南多摩)(東京都 平成 25 年)に掲載されている種

青字：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成 16 年 法律第 78 号)に基づき特定外来生物及び未判定外来生物に指定されている種

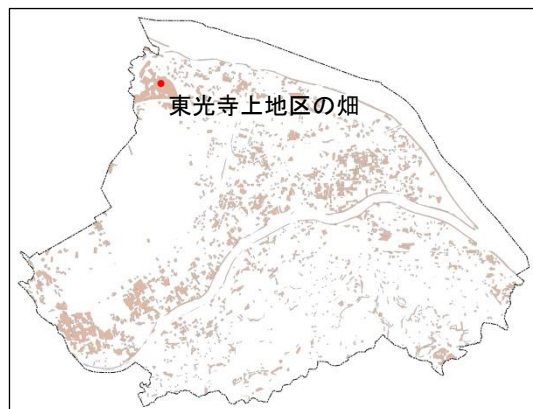
生息環境区分に基づく生きものの特徴

生息環境区分 6 畑・草地

環境の特徴

台地上の耕作地周辺の草地環境

調査地点と生息環境区分の分布図



確認された動植物種

	東光寺上地区の畑
植物	37 科 114 種
鳥類	15 科 16 種
哺乳類	1 科 1 種
両生類	0 種
爬虫類	0 種
昆虫類	102 科 219 種
クモ類	3 科 3 種

動植物の特徴

植物	ススキ等の高茎草本や、スベリヒユ、シロザ、ナズナ、トキンソウ、ハハコグサといった畑地によくみられる植物が生育していた。			
鳥類	人家周辺に生息する留鳥のスズメ、ムクドリ、ハクセキレイ、耕作地等草地に生息する夏鳥のヒバリ、冬鳥のツグミなどが確認された。			
哺乳類	畑上にキツネの足跡が確認された。周辺の樹林や草地とつながる畑を狩場や移動経路として利用していると考えられる。			
両生類 爬虫類	生息は確認されなかった。			
昆虫類 クモ類	作物を食草とする種や明るい裸地を利用する種が確認された。			

課題

農地の減少・断片化 農業は産業の場であるだけでなく、古くから親しまれてきた日野市の風景を形成し、動植物の生息・生育空間でもある。生産の場としてだけでなく、多面的な活用によって、農地減少をくい止めることが望まれる。	農業者の高齢化や後継者不足 相続の発生や農業従事者の高齢化を背景に農地は減少が続いている。農地保全の取組み、農業に従事する人材の育成により、農と共存するまちの形成が望まれる。
--	---

主な生息・生育確認種

生息環境区分	調査地点	主な生息・生育確認種				
		植物	鳥類	哺乳類	両生類・爬虫類	昆虫類・クモ類
6:畑・草地	東光寺上地区の畑	イタドリ スベリヒユ シロザ ナズナ ヤハズソウ クズ ヤブガラシ メマツヨイグサ ホトケノザ トキンソウ オオアレチノギク ハハコグサ セイタカアワダチソウ ツユクサ メヒシバ オヒシバ カゼクサ ススキ チカラシバ エノコログサ	キジバト モズ ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ムクドリ ツグミ ハクセキレイ ガビチョウ	キツネ	—	ウヅキコモリグモ シバズ マダラバッタ ウリハムシ セグロカブラハバチ ヒメハラナガツチバチ モンシロチョウ

【凡例】

赤字：以下の基準に該当する種を重要種とし赤字で示した。

- ①「文化財保護法」（昭和 25 年 法律第 214 号）
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 法律第 75 号）
- ③「環境省レッドリスト 2015 の公表について」（環境省 平成 27 年）
- ④「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～（南多摩）（東京都 平成 25 年）に掲載されている種

青字：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（平成 16 年 法律第 78 号）に基づき特定外来生物及び未判定外来生物に指定されている種

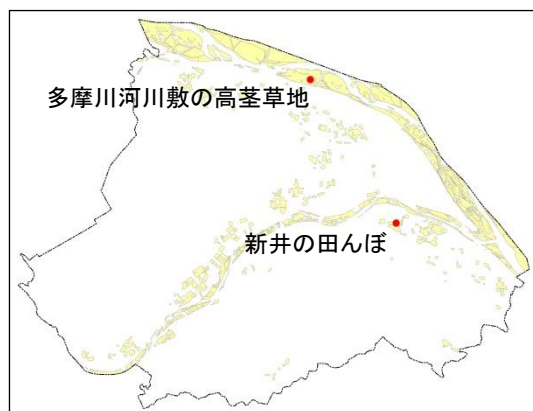
生息環境区分に基づく生きものの特徴

生息環境区分 7 水田・低水敷

環境の特徴

低地の水田および多摩川河川敷の湿性植物、乾性植物からなる草地環境

調査地点と生息環境区分の分布図



確認された動植物種

	多摩川河川敷の高茎草地	新井の田んぼ
植物	58 科 201 種	42 科 117 種
鳥類	29 科 48 種	11 科 12 種
哺乳類	3 科 3 種	1 科 1 種
両生類	0 種	1 科 1 種
爬虫類	0 種	0 種
昆虫類	114 科 289 種	85 科 163 種
クモ類	4 科 6 種	4 科 6 種

動植物の特徴

植物	水田周辺は、アゼナ、コナギなどの湿性植物が特徴的に見られた。多摩川河川敷では、アレチウリ、オオカワデシヤ、シナダレスズメガヤなど、生態系に悪影響を及ぼす外来植物が多く確認された。			
鳥類	人家周辺に生息するスズメ、夏鳥のツバメ、草地に生息するホオジロ、モズ、水辺に生息するサギ類、カモ類、セキレイ類、特定外来生物のガビチョウが確認された。			
哺乳類	樹林から水辺まで様々な環境を利用する、タヌキやハクビシンが確認された。用水路や河川沿いの草地などを移動経路・採餌の場として利用していると考えられる。			
両生類 爬虫類	新井の田んぼでは水田などに特徴的に生息するトウキョウダルマガエルが確認された。			
昆虫類 クモ類	ナガコガネグモなど湿性草地に生息する種や、ショウリョウバッタモドキなどまとまったイネ科高茎草地を生息地とする種が確認された。			

課題

外来植物の繁茂 多摩川河川敷では多くの外来植物の繁茂が確認された。特定外来種をはじめ、シナダレスズメガヤの繁茂など河川生態系に悪影響を及ぼすことが懸念される事象があり、早急な対策が求められている。	水田の減少 昭和 60 年に 108ha あった水田は、現在では 20ha 未満となっている。水田の減少によって、水田を生息環境とする種の減少が懸念される。防災、環境、食育など、農地の多面的機能の再認識と合わせて減少を防ぐ必要があります。
--	---

主な生息・生育確認種

生息環境区分	調査地点	主な生息・生育確認種				
		植物	鳥類	哺乳類	両生類・爬虫類	昆虫類・クモ類
7:水田・低水敷草地	多摩川河川敷の高茎草地	<p>ハンノキ ムクノキ ミゾソバ タネツケバナ クズ アレチウリ チョウジタデ オオフサモ ミゾコウジュ アゼナ サギゴケ オオカワヂシャ カワヂシャ</p>	<p>キジ アオサギ イソシギ トビ ノスリ モズ</p>	<p>タヌキ イタチ科の一種 ハクビシン</p>		<p>アシナガグモ キクヅキコモリグモ ハナグモ ヤハズハエトリ ヒガシキリギリス ヤチスズ ショウリョウバッタモドキ ハネナガイナゴ トノサマバッタ マクガタテントウ ギンイチモンジセセリ モンキチョウ</p>
	新井の田んぼ	<p>アメリカセンダングサ セイタカアワダチソウ オモダカ オオカナダモ エビモ コナギ シナダレスズメガヤ カゼクサ オギ、ススキ ヨシ、ツルヨシ</p>	<p>シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ スズメ セグロセキレイ ホオジロ ガビチョウ</p>			

【凡例】

赤字：以下の基準に該当する種を重要種とし赤字で示した。

- ①「文化財保護法」（昭和 25 年 法律第 214 号）
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 法律第 75 号）
- ③「環境省レッドリスト 2015 の公表について」（環境省 平成 27 年）
- ④「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～（南多摩）（東京都 平成 25 年）に掲載されている種

青字：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（平成 16 年 法律第 78 号）に基づき特定外来生物及び未判定外来生物に指定されている種

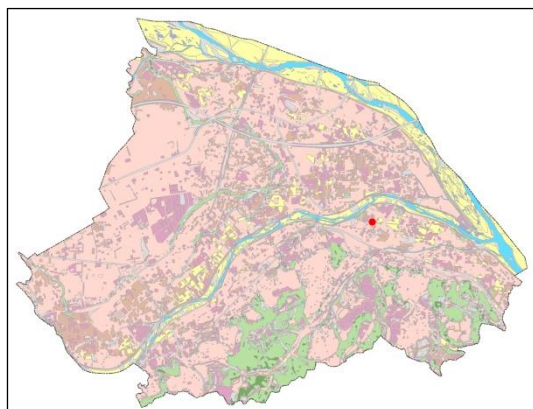
生息環境区分に基づかない調査地点の生きものの特徴

潤徳小学校ビオトープと向島親水路

環境の特徴

浅川から取水した向島用水を利用した学校ビオトープの環境

調査地点



確認された動植物種

	潤徳小学校ビオトープと向島親水路
植物	78 科 232 種
鳥類	19 科 23 種
哺乳類	3 科 3 種
両生類	1 科 1 種
爬虫類	0 種
昆虫類	102 科 233 種
クモ類	5 科 8 種

動植物の特徴

植物	水路内やその周辺の湿った立地では、タチヤナギ、ハンノキ、ミゾソバ、セリといった湿性植物が見られた。また、水路内に特定外来生物であるオオカワデシヤが確認された。			
鳥類	水辺に生息するカワセミ、カルガモ、樹林に生息する留鳥のキジバト、オナガ、シジュウカラ、耕作地等草地に生息するモズ、特定外来生物のガビチョウが確認された。			
哺乳類	樹林から水辺まで様々な環境を利用する、タヌキやハクビシン、アライグマ等が確認された。親水路は浅川とつながっており、移動経路として重要であり、採餌の場としても利用していると考えられる。			
両生類 爬虫類	水田や用水路に生息するトウキョウダルマガエルが確認された。			
昆虫類 クモ類	緩やかな流水域に生息する種、湿生植物を利用する種、水辺を生息環境として好む種のほか、植栽樹木の害虫が確認された。			

課題

用水の維持管理の担い手 稲作の衰退と共に、用水を維持管理する主体が代わってきている。近隣住民を中心とした用水守制度が活用され、ボランティアによる維持管理が行われているが、日ごろ用水と関わりの無い市民も用水との結びつきを強め、市民全体で用水を守る体制が望まれる。	環境用水の将来的な利用 農業としての用途が失われた用水は環境用水として利用されているが、安全面や衛生面での課題も残っている。環境用水としての利用価値を高めるなど、将来的に用水を利用する方法を考える必要がある。
--	--

主な生息・生育確認種

調査地点	主な生息・生育確認種				
	植物	鳥類	哺乳類	両生類・爬虫類	昆虫類・クモ類
真堂が谷戸	タチヤナギ ハンノキ ミゾソバ セリ オオカワヂシャ カキツバタ キショウブ クサヨシ マコモ セキショウ ミクリ	カルガモ キジバト カワセミ コゲラ モズ オナガ シジュウカラ ヒヨドリ メジロ ムクドリ スズメ カワラヒワ ガビチョウ	アズマモグラ タヌキ ハクビシン アライグマ	トウキョウダルマガエル カナヘビ	ヤサガタアシナガゲモ ハグロトンボ シマアメンボ ヤナギグンバイ ツツジグンバイ キバラヘリカメムシ ニンギョウトビケラ ミノウスバ

【凡例】

赤字：以下の基準に該当する種を重要種とし赤字で示した。

- ①「文化財保護法」(昭和 25 年 法律第 214 号)
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 法律第 75 号)
- ③「環境省レッドリスト 2015 の公表について」(環境省 平成 27 年)
- ④「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～(南多摩)(東京都 平成 25 年)に掲載されている種

青字：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成 16 年 法律第 78 号)に基づき特定外来生物及び未判定外来生物に指定されている種

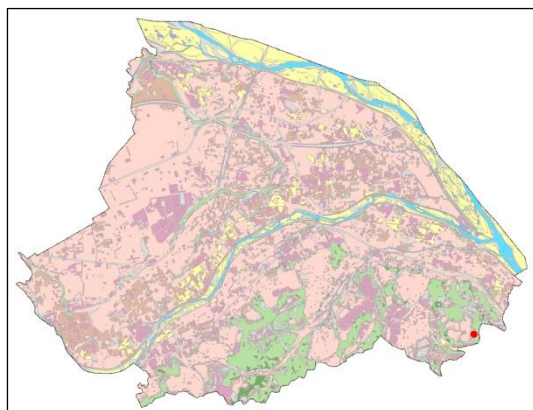
生息環境区分に基づかない調査地点の生きものの特徴

真堂が谷戸

環境の特徴

湧水由来のせせらぎと、下草管理の行き届いた雑木林のある谷戸環境

調査地点



確認された動植物種

	真堂が谷戸
植物	83 科 268 種
鳥類	12 科 16 種
哺乳類	4 科 4 種
両生類	1 科 1 種
爬虫類	0 種
昆虫類	118 科 267 種
クモ類	8 科 19 種

動植物の特徴

植物	明るい林床や林縁に生育するカザグルマ、キンラン、ササバギンランなどが確認された。また、湧水由来のせせらぎの周辺ではミズやチダケサシといった湿った立地に生育する植物が確認された			
カザグルマ		ミズ		キンラン
鳥類	樹林地に生息する留鳥のヤマガラ、シジュウカラ、アオゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、エナガ、ハイタカ、夏鳥のミゾゴイ、林床のササ藪に生息するウグイス、特定外来生物のガビチョウが確認された。			
ミゾゴイ		アオゲラ		
哺乳類	雑木林や谷戸などの環境を利用する、タヌキやアナグマが確認された。細流沿いを移動経路や採餌の場として利用していると考えられる。			
タヌキ		アナグマ		アズマヒキガエル
両生類 爬虫類	唯一の池があり、水辺環境に生息するアズマヒキガエルが確認された。			
昆虫類 クモ類	谷戸の水域と樹林がセットになった環境を好む種や雑木林の林縁に生息する種、朽ち木を利用する種に加え、畑の作物を餌とする種や水田・水辺に生息する種が確認された。			
トビイロオオヒラ タカメムシ		クモヘリカメムシ		ルリオオキノコ

課題

重要種の保全 豊かな自然環境の残る真堂が谷戸では、調査で多くの重要種が確認された。これらの種が今後も健全にこの場所で生育するためには、種ごとの適切な管理と保全計画が必要である。	湧水の水量確保 湧水の水量は、季節や降水量によって変化するが、かん養域の宅地化や土地利用の変化により減少し、枯渇することが考えられるため、長期的に推移を見ながら湧水の保全を計る必要がある。
--	--

主な生息・生育確認種

調査地点	主な生息・生育確認種				
	植物	鳥類	哺乳類	両生類・爬虫類	昆虫類・クモ類
真堂が谷戸	イヌシデ クヌギ コナラ ミズ カザグルマ チダケサシ ヤマザクラ ミズキ ガマズミ ヤマユリ キツネノカミソリ エビネ キンラン ササバギンラン	キジバト アオバト ミゾゴイ ハイタカ アオゲラ コゲラ ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ ハクセキレイ ガビチョウ	アズマモグラ アライグマ タヌキ アナグマ	アズマヒキガエル	オオシロカネグモ ヤサガタアシナガグモ アシナガグモ イモコモリグモ マユタテアカネ アキアカネ アシグロツユムシ トビイロオオヒラタカメムシ ヘラクヌギカメムシ カサハラハムシ セグロカブラハバチ モンスズメバチ クロヒカゲ

【凡例】

赤字：以下の基準に該当する種を重要種とし赤字で示した。

- ①「文化財保護法」(昭和 25 年 法律第 214 号)
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 法律第 75 号)
- ③「環境省レッドリスト 2015 の公表について」(環境省 平成 27 年)
- ④「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～(南多摩)(東京都 平成 25 年)に掲載されている種

青字：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成 16 年 法律第 78 号)に基づき特定外来生物及び未判定外来生物に指定されている種